

2 全体構想

2

全体構想

まちづくりの基本目標

これからのまちづくりは、地方分権の推進や少子高齢化の進行、人口減少時代を迎えて、本市固有の自然、歴史、文化を活かした魅力ある都市空間の創出、防災・防犯対策や誰もが安心して暮らせる市街地の形成、市民の価値観の多様化に対応した快適な居住環境の整備、ごみ対策と併せて限りある資源を効率的に利用する循環型社会や低炭素社会の実現などが重要な課題になると考えられます。

そのうえで、小金井市の将来像と施策の大綱を踏まえて、本市を舞台に生活し、働き、楽しむ「人」が参加と協働により都市活力の源になることを強く認識し、ゆとりと豊かさを真に実感できるまちづくりをめざして、まちづくりのテーマと3つの基本目標を定めます。

まちづくりのテーマ

「人・水・みどり ふれあいのまち 小金井」

第4次小金井市基本構想

都市計画マスタープラン

施策の大綱

基本目標

みどりあふれる快適で人にやさしいまち

自然環境と利便性の調和、地域からの地球環境保全、市街地・住環境及び道路の整備、施設等のバリアフリー化

ふれあいと活力のあるまち

市民活動を活かしたコミュニティの再構築、地域を支え地域に支えられる産業づくり、防災・防犯・危機管理

豊かな人間性と次世代の夢を育むまち

生涯学習の場の充実、スポーツ・レクリエーション

誰もが安心して暮らせる思いやりのあるまち

子育て支援、誰もが健やかに安心して暮らせるまちづくり、ノーマライゼーションの推進

①環境共生のまちづくり

自然環境と利便性の調和、地域からの地球環境保全

②安全・安心なまちづくり

市街地・住環境及び道路の整備、施設等のバリアフリー化、防災・防犯・危機管理、子育て支援、誰もが健やかに安心して暮らせるまちづくり、ノーマライゼーションの推進

③自立(律)と活力にみちたまちづくり

市民活動を活かしたコミュニティの再構築、地域を支え地域に支えられる産業づくり、生涯学習の場の充実、スポーツ・レクリエーション

基本目標1 『環境共生のまちづくり』

水とみどりのネットワークや循環型社会をめざしたまちづくり

「環境共生のまちづくり」の基本的な考え方

小金井らしさを代表する豊かな水やみどりを活かすとともに、自然資源の復活、創出により、地球温暖化への対応を図りながら、生物多様性に配慮した環境づくりが求められています。

私たちは、地域固有の資源である野川や玉川上水などの「水」と、国分寺崖線（はげ）や武蔵野の面影を残す屋敷林、農地などの「みどり」を大切に保全し、これらをネットワーク化することにより、更に新たな「水とみどり」を生み出すとともに、限りある資源を効率的に利活用する循環型社会、低炭素社会の実現に向けて、次世代に誇れる「環境共生のまちづくり」をめざします。

方針1-1 次世代にほこれる景観づくり

● 小金井の風土にあった風景の保全と形成

国分寺崖線（はげ）のみどり、玉川上水の名勝小金井（サクラ）並木、農地と屋敷林、地区のシンボルとなる巨木や並木など、小金井らしい美しさと風格を備えた風景の保全と形成を推進します。

● 小金井にふさわしい市街地景観の質の向上

広告物の掲示や自動販売機の設置などを規制すべき地区を指定し、建築物の形態や外壁の色彩と街並みとの調和を図ります。また、道路の整備と併せた電線類地中化（無電柱化）や街路樹の植栽などにより、道路空間の改善による市街地景観の質の向上を推進します。

● 都市の拠点や軸における小金井らしいみどりの創造

駅周辺の拠点地区や都市活動の軸となる主要道路沿いに、ケヤキのシンボル樹やヤマザクラなど、小金井らしいみどりの創出を進めます。

方針 1-2 水とみどりと生き物の創造

● みどりの回復

みどりの減少を防ぎ、農地や屋敷林の保全と宅地内緑化を支援します。

また、指定開発事業者に対しては、

- ・みどりを守り育てる。
- ・地下水、湧水、河川の水環境を回復する。
- ・自然環境を一体的に保全する。

などの環境配慮基準に適合するように、指導・要請します。

● 水の循環性の確保

雨水の透水性、保水性の向上を図るために可能な限り土を残し、また、道路整備の際には、可能な限り透水性舗装を行うことや雨水浸透ます等に対して補助を行い、各戸貯留の推進を図るなど、水の循環系づくりによる野川への湧水源と水量の確保を進めます。

● 水とみどりのネットワーク化

小金井公園、野川公園、武蔵野公園などの大規模公園・緑地、玉川上水、野川などの緑地資源のネットワーク化を進めます。

● 多様な生態系の確保

国分寺崖線（はげ）のみどりを守るとともに、野川周辺の生態系再生など、多様な動植物の生存環境の確保を進めます。

● 親水空間の整備

野川、仙川などの河川の親水性を高めることや、用水路の復活などを東京都に要望するなどして、親水空間の整備を進めます。



▲野川

方針 1-3 環境負荷の少ないまちづくり

● 循環型都市の形成

地球規模での環境問題が顕在化している今、大量生産、大量消費、大量廃棄というこれまでの社会経済システムを改め、ごみそのものを産み出さない社会構造と消費体系を形成し、廃棄物をゼロにするためのゼロエミッションや資源の再利用を図るためのリサイクル化を進め、自然環境への負荷を軽減する循環型都市環境への誘導を推進します。

● 低炭素社会の構築

地球温暖化を抑制するため、クリーンエネルギーや高効率設備等の導入を図るとともに、温暖化ガスの吸収に資するみどりの確保による、低炭素社会の構築を推進します。

● 大気汚染の防止

アイドリングストップの励行やJR中央本線連続立体交差事業と併せた、小金井街道などの幹線道路整備による円滑な自動車交通処理によって、大気汚染の軽減を推進します。

更に、市街地内の幹線道路の自動車の通過交通の抑制を検討するとともに、歩行者や自転車空間の整備や、バスなどの公共交通機関の充実など、交通手段の転換によって、大気に排出される窒素酸化物等の抑制を図るなど、エネルギーの効率化と大気汚染の防止を進めます。

● 輻射熱の抑制（ヒートアイランド現象への対応）

公園・緑地の保全とともに、オープンスペースや屋上・壁面の緑化、生け垣化の促進、街路樹の積極的な整備などにより輻射熱の軽減、抑制を進めます。

● 環境にやさしい建築物の誘導

省エネルギーや水・大気の循環に配慮し、環境負荷の軽減に効果のある環境共生建築物づくりの誘導を進めます。



▲環境配慮住宅型研修施設

「環境共生のまちづくり」を実現するための都市構造

● みどりの拠点

大規模な水とみどりの空間は、都市の温暖化や大気汚染を緩和する機能を有します。こうした観点からも、小金井公園、野川公園、武蔵野公園などの大規模公園・緑地はみどりの拠点として保全に努めます。

● みどりの軸

● 南北軸

小金井街道は、北は小金井公園から南は多磨霊園まで、玉川上水、仙川、国分寺崖線（はけ）のみどり及び野川など小金井の主要なみどりの資源を結ぶ位置にあります。これをみどりの南北軸として位置づけ、沿道の歩行者空間の拡充や、電線類地中化（無電柱化）や街路樹の植栽などの整備を進めます。

● 東西軸

JR中央本線沿線ゾーンは、みどりの東西軸として位置づけ、JR中央本線利用客（来街者）が小金井らしい風景を視認できるよう、緑化を進めます。

● みどりの環

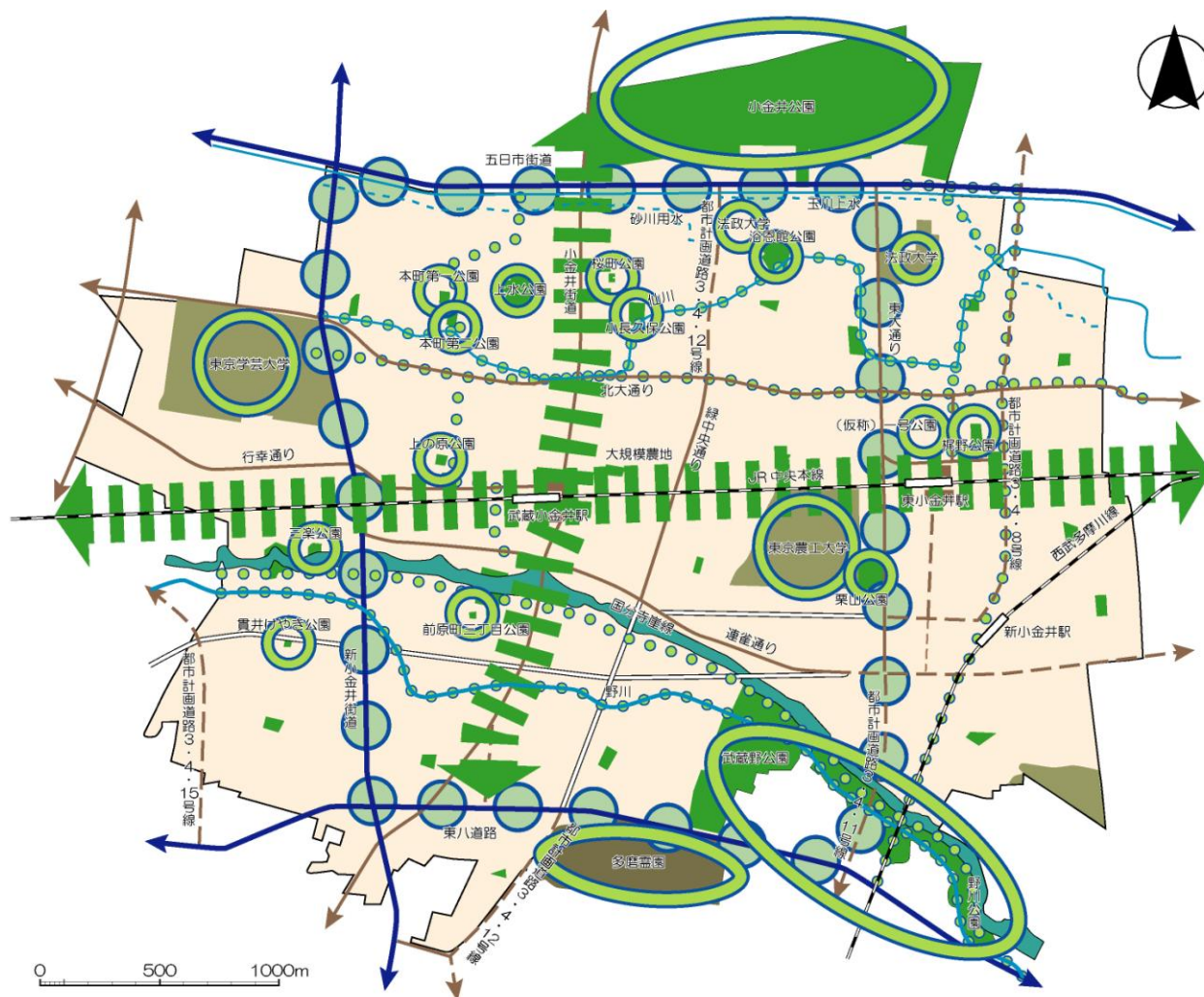
● みどりの大きな環

都市の骨格でほぼ外周を形づくる五日市街道、新小金井街道、東八道路及び東大通りをみどりの大きな環に位置づけます。五日市街道は玉川上水の名勝小金井（サクラ）並木などの親水空間を活かし、新小金井街道、東八道路及び東大通りは地域の特色を踏まえて街路樹の整備を図るとともに、小金井公園、野川公園、多磨霊園などのみどりの拠点間の回遊性を高めます。

● みどりの小さな環

国分寺崖線（はけ）のみどり、はけの道、野川などの水とみどりの資源を活用するとともに、仙川や砂川用水を親水空間化することにより、水とみどりのネットワーク化を図り、みどりの小さな環として位置づけます。みどりの小さな環は、散策路を中心とした整備を進めます。

環境共生のまちづくり方針



	みどりの拠点		国分寺崖線（はけ）		都市計画道路
	みどりの軸		大学		鉄道・駅
	みどりの大きな環		広域幹線道路		河川
	みどりの小さな環		幹線道路 （整備済・概成・整備中）		
	都市計画公園・緑地		幹線道路 （今後整備を進める路線）		

基本目標2『安全・安心なまちづくり』

歩行者の安全性や快適性を重視したまちづくりや

ノーマライゼーションを意識したふれあいのあるまちづくり

「安全・安心なまちづくり」の基本的な考え方

市民意識やライフスタイルが変化し価値観が多様化する成熟した社会では、都市に暮らす市民一人ひとりが安全、安心、豊かさ、喜びなどを実感できるまちづくりが大切です。

私たちは、生活におけるゆとりや質の向上に加えて、東日本大震災などの大規模災害を教訓とし、更にノーマライゼーションの精神に基づいて、まちに住む子どもや高齢者、身体に障がいのある人などの災害時要援護者を含めた全ての人々が安心して快適な生活が送れるような、生活基盤施設整備と地域コミュニティに配慮した「安全・安心なまちづくり」をめざします。

方針2-1 災害に強いまちづくり（まさかのときの安全）

● 安全に避難できるまちづくり

延焼拡大を防ぐ延焼遮断帯、火災などの災害から安全な場所へ誘導する避難道路及び避難場所や備蓄倉庫など防災拠点の整備を進めるとともに、危険なブロック塀等の改善策のための生け垣化等への誘導を支援します。

● 燃えないまちづくり

大規模な地震や災害への対策として、建築物の不燃化、耐震化への誘導を支援します。

● ライフラインの強化と確保

大規模な地震時に上・下水道、電気、ガス、通信などのライフライン施設の被害の軽減を図るため、耐震性、代替性の確保及び電線類地中化（無電柱化）を進め、各施設の安全性を高めます。

● 情報ネットワークの整備

市民と市の協力による自主防災意識の醸成や日頃からの防災訓練の実施に加えて、災害情報の正確な伝達や円滑な避難、救急救助、救護活動を実現するための情報ネットワークの構築を進めます。

● 安心して暮らせる生活環境づくり

災害時における安全性を確保するため、行き止まり道路の解消、主要生活道路の整備を進めるとともに、公園の整備や農地の保全を図るなど、身近な避難場所や避難道路の整備を進めます。

方針 2-2 安心して暮らせるまちづくり（日常生活の安心）

● 誰もが安心して過ごせるまちづくり

地域の日常生活の利便性の向上と、子どもから障がいのある人や高齢者までが安全で安心できる生活空間を形成するため、日常生活圏（コミュニティゾーン）の明確化と、日常生活圏内での福祉施設や各種生活関連施設の整備を進めます。

また、犯罪を未然に防ぐために、公園をはじめとした都市施設の死角の排除や街路灯などの設置を図り、安心して暮らせるまちづくりを進めます。

● ノーマライゼーションに配慮したまちづくり

『バリアフリーのまちづくり基本構想』（平成20年3月）に基づき、高齢社会や福祉社会などに対応し、段差の少ない道路、駅のエスカレーター・エレベーターなどの整備に努め、高齢者や障がいのある人が自由に行動し、社会参加がしやすいまちづくりを進めます。

● バスが活躍するまちづくり

市街地内の自動車の通過交通を抑制するために、公共交通機関の充実を図り、低床バスの導入や低公害バスの導入とともに、専用時間帯の検討によるバス優先走行車線の確保、ITSによる公共交通の運行支援を進めます。また、CoCoバスの運行ルートの検証を進めることで、コミュニティバスの効果的・効率的な運行を図り、子どもから高齢者、障がいのある人まで、多くの市民に利用され、バスが活躍するまちづくりを進めます。

また、JR中央本線連続立体交差事業に伴う南北交通の円滑化など、渋滞解消によるバスの利便性の向上を進めます。

● 人と自転車にやさしいみちづくり

市民の健康やレクリエーションへの関心の高まりや、環境に配慮したまちづくりを進めるため、できる限り交通手段をバス、自転車、徒歩への転換を推進します。歩行者や自転車の安全性を確保するためには、幹線道路における歩行者道・自転車走行空間の確保とともに、自転車駐輪場の整備を進めます。

また、歩行者に配慮した自転車の利便性向上を図るため、自転車放置禁止区域のPRを進めるとともに、商店街を利用しやすい駐輪場整備を検討します。

● 計画的な都市施設のマネジメント

既存又は、今後整備する都市施設（公共施設）については、将来にわたるコスト、環境等に配慮しながら、劣化状況を把握し、持続的な都市機能の維持のために、施設の長寿命化や保守管理の効率化を進めます。

方針 2-3 ふれあいのあるまちづくり

● 地域のなかで日常生活を済ませることができるまちづくり

高齢社会を迎え成熟した住宅地を整備するために、歩ける範囲での基礎的
生活圏単位で行政サービス、福祉サービス、近隣商業及び各種生活関連サービ
スが受けられるような地域中心拠点の整備を目指し、こうした基礎的
生活圏単位での相互生活援助のシステムづくりを支える都市基盤の形成を推進します。

● 多様な住空間づくり

定住人口の増加をめざして、これまで建設されてきた住宅ストックの活用な
どを考慮しながら、交通の利便性の高い地域におけるファミリー世帯のための
都市型住宅、バリアフリー住宅など、市民の生活の多様化に対応した多様な住
空間づくりを進めます。

● 地域のコミュニティ活動や交流を支援するまちづくり

地域のコミュニティ活動や交流を盛んにするために、大人と子ども、高齢者
と子どもや障がいをもつ人など、近隣の人々がふれあえる場所づくり（集会施
設機能）を進めます。



▲消防団出初式

「安全・安心なまちづくり」を実現するための都市構造

● まさかの時の安全……災害時への対策

● 避難場所、避難道路

広域避難場所（5か所）には、延焼遮断帯や避難道路に位置づけられている都市計画道路などの幹線道路、一時避難場所（20か所）には災害時に避難誘導路として機能する主要生活道路により安全なネットワークの形成を進めます。

緊急輸送道路となる避難道路は、沿道建築物の不燃化・耐震化、電線類地中化（無電柱化）、落下物対策などにより人的被害の低減や通行遮断の防止などを図り、延焼遮断帯の形成をめざします。

● 延焼遮断帯

市街地にある幹線道路、鉄道などの空間は、これ自体ある一定の幅を有しており火災の延焼を防止する機能を備えていますが、更に沿道の建築物の不燃化を支援して、都市の延焼遮断帯としての活用を図ります。

また、公園緑地、街路樹、公共公益施設での緑化推進など、さまざまな方策により延焼を防止する空間の創出にも努めます。

● 木造密集市街地の解消

既成市街地の一部において存在する木造密集市街地は、災害時の延焼防止、避難、救急活動などに問題があるため、建物の耐震化や不燃化とともに道路、公園及び防火水槽などの基盤施設の計画的な整備を進めます。

● 建築物の耐震・不燃化の促進

災害に強いまちづくりを進めるため、建築物の耐震化や不燃化を進めます。また、中心市街地では土地利用密度が高く、出火の危険性の高い施設も多く混在していることから、防火・準防火地域の拡大に努め、安全で安心なまちづくりを進めます。

● 生活空間の整備

消防活動が困難な区域の解消や避難場所への連絡を確保するため、行き止まり道路の解消や狭隘道路の拡幅など、生活道路の改善を進めるとともに、倒壊による危険性を低減するため、危険なブロック塀等の改善策のための生け垣化等を推進します。

● 防災まちづくりの考え方

……………まさかのときの安全・安心の実現に向けて

● 安全に避難できるまちづくり

延焼拡大を防ぐ延焼遮断帯、火災などの災害時に安全な場所となる避難場所、避難道路の整備を進めます。

- ・ 避難道路、延焼遮断帯沿道の不燃化
- ・ 一時避難場所、広域避難場所の整備〈基本的にめざすべき防災市街地〉
- ・ 緊急時のオープンスペースとしての農地の活用
- ・ 危険なブロック塀等の改善策のための生け垣化等への誘導

● 消防活動がしやすいまちづくり

出火した場合でも、消防車が速やかに近づき火を消し止められるような主要生活道路と防火水槽の計画的な整備や、平常時でも緊急車両やデイサービスセンターなどの車両が容易に通行できるような主要生活道路づくりを進めます。

● 燃えないまちづくり

基本的には、大規模な地震などの災害が起こっても壊れたり、燃えたりしない市街地の整備を進めます。

- ・ 建築物の不燃化、耐震化への誘導
- ・ 宅地の細分化防止による建て詰まりの抑制



▲ 小金井街道

● 日常生活の安心

1 日常生活圏（コミュニティゾーン）と主要生活道路（コミュニティ道路）

交通事故を心配しないで誰もが積極的に社会参加したり、子どもたちがすくすくと育つような、安心して暮らせるまちづくりのためには、交差点などの「点」、歩道や路地などの「線」の安全を確保するだけでは不十分であり、幹線道路で囲まれた日常生活を面として捉え、面全体での安全性を確保するために日常生活圏（コミュニティゾーン）の確立を推進します。また、日常生活圏での生活上の主要な動線进行处理したり、コミュニティ活動の場ともなる主要生活道路（コミュニティ道路）の整備を併せて進めます。

併せて、防犯まちづくりを推進し、公園をはじめとした都市施設の適切な維持・管理など、安心して暮らせるまちづくりを進めます。

2 地域中心拠点

高齢社会を迎え、成熟した住宅地を整備するために、歩ける範囲での基礎生活圏単位で行政サービス、福祉サービス、近隣商業及び各種生活関連サービスが受けられるような地域中心拠点の整備を推進します。

3 ふれあい拠点

日常生活圏の地域中心拠点において、高齢者や障がいをもつ方、大人と子どもと一緒に楽しみ、ふれあうためのふれあい拠点の整備を進めます。

主要生活道路（コミュニティ道路）の整備の考え方

主要生活道路の役割

〈平常時〉

- ・ 地区内の生活交通や各種コミュニティ活動の軸となる道路です。
- ・ 主要生活道路により、小中学校・その他公共公益施設、公園緑地・広場などをネットワークし、安全で快適にこれらの施設利用が可能となります。
- ・ 今後、高齢化社会に対応したデイサービスセンターの送迎車両や介護のための特殊車両、ミニバスなどの巡回ルートとしても利用が可能です。

〈災害時〉

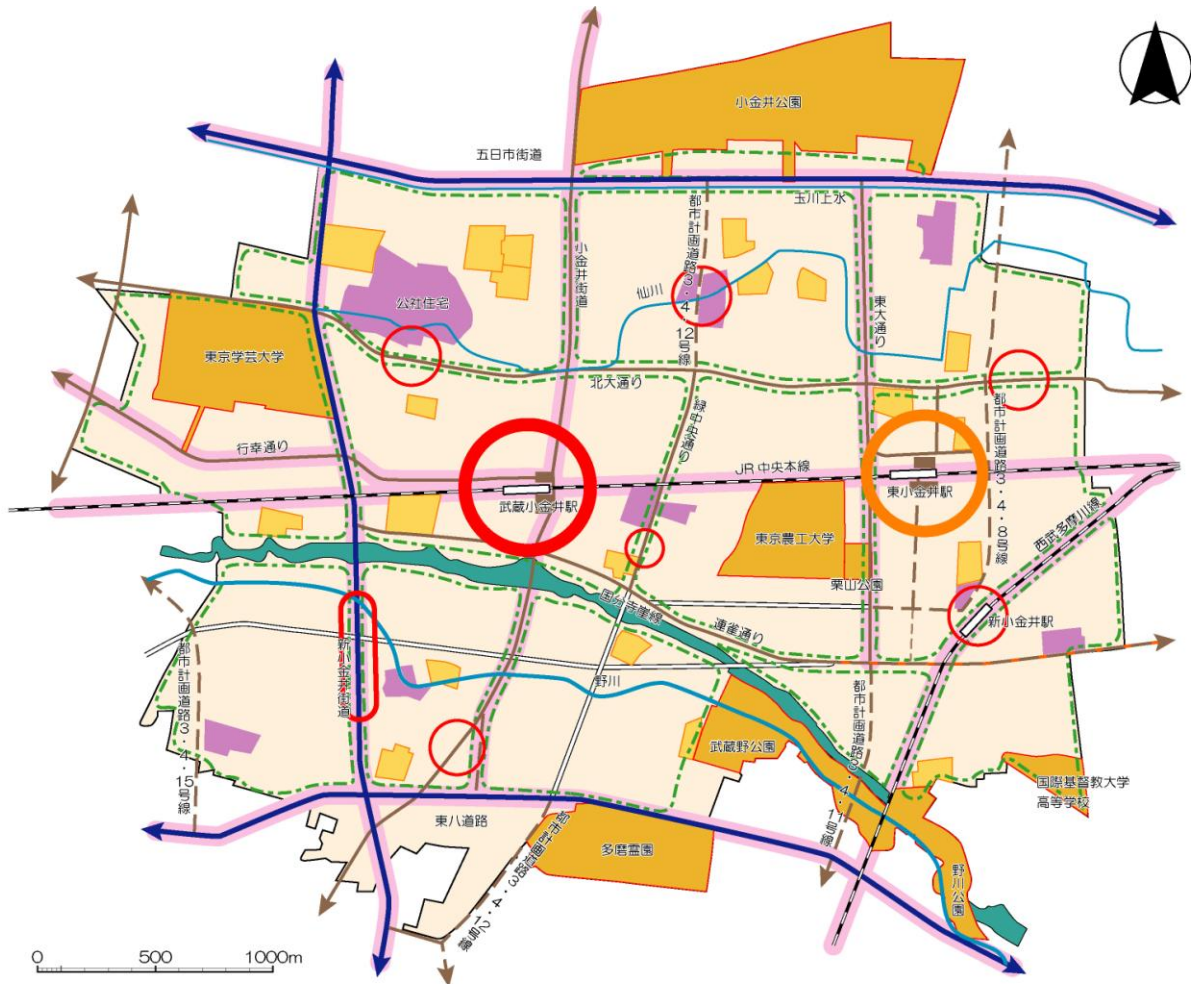
- ・ 身近な避難場所までの避難道路として利用されます。
- ・ 消火活動や救急活動が円滑に行われることとなります。

整備に当たっての考え方



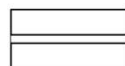



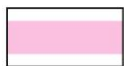

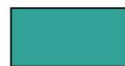


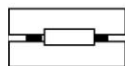



基本的には、大規模な地震などの災害が起こっても壊れたり、燃えたりしない市街地の整備を進めます。

- ・ 可能な限り現道6m以上の道路を有効活用します。
- ・ 適切な間隔で道路を配置し、歩行者の安全性に配慮した構造とします。
- ・ 地域の方との合意を得ながら、地区計画等のまちづくり手法による、狭隘道路の解消を目指します。

安全・安心なまちづくり方針



凡例

	広域避難場所		日常生活圏 (コミュニティゾーン)		都市計画道路
	一時避難場所		地域中心拠点		大規模団地
	延焼遮断帯		広域幹線道路		国分寺崖線 (はけ)
	総合拠点		幹線道路 (整備済・概成・整備中)		鉄道・駅
	副次拠点		幹線道路 (今後整備を進める路線)		河川

基本目標3『自立（律）と活力にみちたまちづくり』

新たな出会いと交流を生む魅力的な都市空間を備えた

小金井らしい活力にみちたまちづくり

「自立（律）と活力にみちたまちづくり」の基本的な考え方

21世紀の地方分権化の流れや少子高齢社会などにむけて、本市は従来の住宅都市から市民が愛着を持って暮らすことのできる、魅力と活力にあふれた個性豊かな都市への転換が求められています。

私たちは、個性豊かなJR中央本線沿線各都市の連携と機能補完を意識しつつ、高い市民力や既存の文化、歴史や産業、大学などの機能を活用して、さまざまな人々や情報が行き交う小金井らしい個性と魅力を備えた都市景観や都市空間の整備と併せて、自らのまちの着実な発展により自立し、市民と行政との協働関係を結ぶことにより自らを律して、「住」、「働」、「遊」、「学」が調和した「自立（律）と活力にみちたまちづくり」をめざします。

方針3-1 小金井らしさを実感できるまちづくり

（個性的な都市空間・景観づくり）

● にぎわいと個性のある拠点づくり

武蔵小金井、東小金井両駅は降り立ってホッとするような小金井らしさが実感でき、かつ来街者が楽しめて、新たな出会いと交流が生まれるような魅力的な景観やみどり豊かな空間整備を推進します。

また、新たなまちづくりの際には、サイン看板の導入により回遊性を高めるまちづくりを進めます。

● 「軸」と「回遊」ゾーンでの連なりとみどりを意識した空間づくり

JR中央本線沿線ゾーンで文化、情報発信などの新しい施設を誘導したり、みどり豊かな市街地の整備など、新たなまちづくりを進めます。

小金井街道は、小金井市を代表する道路として位置づけ、都市活動を活発化するために商業・業務や各種サービス施設を誘導するとともに、みどりと景観に配慮した道路整備を進めます。

方針 3-2 創造的・個性的な産業の育成

(誰もが社会参加できるまちづくり)

● 魅力ある商店街づくり

本市の商業は、大部分が小規模な店舗で構成されています。また、現状は購買力が市外に流出している傾向にあります。中心商業地の活性化を図るために、南北駅前地区周辺の回遊性を高め、魅力的な飲食店、専門店などの個店及びコミュニティビジネスの連なりとみどりのふれあいに満ちたオープンスペースが複合する、市民や来街者ニーズの多様化に対応できるような質の高い商店街づくりを推進します。

● 新しい産業の創出

JR中央本線沿線都市としての文化と人の蓄積など本市の特性を活かし、企業、学校、市民、市の連携のもとに、「女性や高齢者、障がいのある人が働ける」、「高齢者や障がいのある人の日常生活を支える」、「大学・研究所や外国人と交流する」、「芸術や文化を通して来街者と交流する」などのコミュニティビジネスや、ITなどを含む先端産業、魅力的で創造的かつ環境にやさしい産業の誘致・育成を進めます。

● 「農」を活かしたまちづくり

産業としての「農業」、生産手段、空間としての「農地」、人的資源としての「農業従事者」、文化や安定したコミュニティ機能としての「農家」や「集落」など、「農」が今後果たす都市への多面的な役割を評価した「農を活かしたまちづくり」を進めます。農業者、商業者、市民の協働（コラボレーション）により、市内農産物を市内で消費するシステムづくりを推進します。



▲小金井街道沿道の商店街

方針 3-3 活力を生むコミュニケーションの場づくり (出会いと交流のあるまちづくり)

- 交流人口の増加をめざしたまちづくり

新たな出会いと交流の盛んな活力にみちたまちづくりをめざし、にぎわいと交流を誘導するゾーンや新たなまちおこしの拠点を舞台に、地域、世代、性別を超えてさまざまな人々が相互にふれあい、多様な価値と個性が交流するまちづくりを推進します。

- ネットワーク（活動、情報、道路など）を活かしたまちづくり

市内外にわたる市民活動のネットワーク、IT社会における情報ネットワーク及びJR中央本線沿線や、南北、東西方向の広域交通ネットワークを活かした活力のあるまちづくりを推進します。



▲市民交流センター

「自立（律）と活力にみちたまちづくり」を実現するための都市構造

● 拠点地区の創出……都市活動の核として

● 総合拠点

総合拠点は、様々な活動を支える都市機能が集積する市の中心拠点としての役割を担い、武蔵小金井駅周辺を総合拠点として位置づけます。

駅周辺では計画的なまちづくりを契機に、「小金井市の顔」、「中心市街地の活性化の核」、「シビックセンターの機能強化」、「業務・研究・教育施設のネットワークの核」、「少子高齢社会に対応するさまざまな機能導入」及び「良好な都市型居住空間の確保」など、複合的な都市機能の誘導を進めます。

● 副次拠点

副次拠点は、総合拠点を補完・連携する拠点としての役割を担い、東小金井駅周辺を副次拠点として位置づけます。

駅周辺では、東小金井駅北口土地区画整理事業を契機に、都市基盤整備とともに各種都市機能の誘導を進めます。

● 新たなまちおこしの拠点

新庁舎建設の際は、新たなまちおこしの拠点として、土地利用の規制・誘導を検討します。

● 都市軸……都市機能の集積と連携による活力増強

● 広域連携軸

五日市街道と東八道路沿道は東西連携軸、新小金井街道沿道は南北連携軸として、沿道立地型の商業施設やサービス施設を中心とした都市機能の導入を図るとともに小金井らしい道路景観への誘導を推進します。

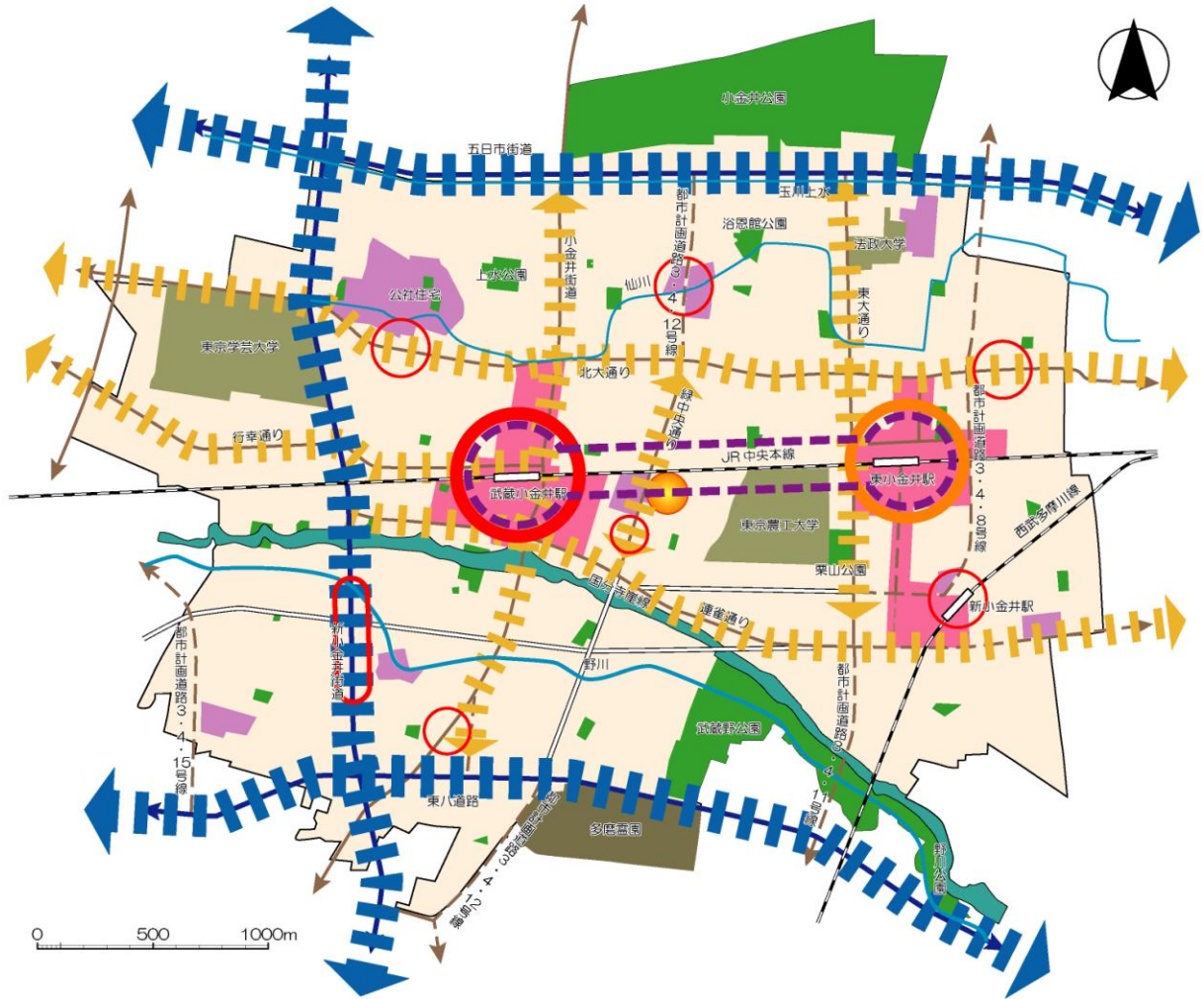
● 都市活動軸

小金井街道、北大通り、連雀通り及び東大通り等の沿道は、小金井市の東西、南北方向の都市活動軸として、商業・業務、生活関連サービス施設及び都市型住宅施設を中心とした都市機能を誘導します。特に、小金井街道は南北方向の通過交通を抑制し、小金井市を代表する道路として景観に配慮した道路整備を進めます。

● にぎわいと交流を誘導するゾーン

武蔵小金井駅、東小金井駅周辺及びJR中央本線沿線ゾーンは、総合拠点、副次拠点及び新たなまちおこしの拠点の整備を進めることにより、創造的・個性的な産業の立地による就業者、交流広場の整備や商業地の活性化による来街者及び新たな都市型住宅の整備による定住人口の増加を誘導し、にぎわいと交流が盛んになるまちづくりを推進します。

自立（律）と活力にみちたまちづくり方針



凡 例

	総合拠点		都市活動軸		都市計画公園・緑地
	副次拠点		商業・業務誘導ゾーン		国分寺崖線（はげ）
	新たなまちおこしの拠点		広域幹線道路		大 学
	にぎわいと交流を誘導するゾーン		幹線道路 （整備済・概成・整備中）		大規模団地
	地域中心拠点		幹線道路 （今後整備を進める路線）		鉄道・駅
	広域連携軸		都市計画道路		河 川

土地利用

本市は、JR中央本線沿線の住宅都市として、昭和30年代から40年代の人口増加に伴い市街化が進行し、現在はほぼ成熟した市街地を形成しています。

今後は、自立（律）と活力のある都市をめざし、中心市街地は土地の高度利用など有効利用を図るとともに、周辺部の住宅地では環境共生型の農を活かすなど、みどりとゆとりに満ちたまちづくりをめざした土地利用へと誘導します。

土地利用の基本的な考え方

● 土地の有効利用

コンパクトで効率的な市街地をめざして、新たな都市機能の集積や人口定着、更に交流人口の増加を図るため、武蔵小金井、東小金井両駅周辺の拠点地区、JR中央本線沿線のにぎわいと交流を誘導するゾーン及び小金井街道、北大通り、連雀通りの都市活動軸では都市機能の更新と土地の高度利用など有効利用を推進します。

● みどりあふれる都市環境の形成

小金井公園、武蔵野公園、野川公園などの大規模公園、国分寺崖線（はげ）や野川などの豊かな水とみどりの自然環境を、小金井市固有のみどりの資源として保全するとともに、生物の回廊としてのネットワーク化を図り、市民や来街者にとって身近な自然に親しむ場やレクリエーションの場として活用を図ります。

● 農のあるまちづくり……農地の保全と活用

農地の都市環境保全に果たす役割や、農業とともに培ってきた地域の持つ文化伝承機能などに着目し、農地の保全や農業の都市活力への活用など、農と都市が交流する「農を活かしたまちづくり」を推進します。

土地利用の誘導方針

● 住宅系

● 低密度住宅地

本市の約7割を占める低層の住宅地は、宅地内の緑化を推進し、ゆとりと潤いのある居住空間をめざした戸建て住宅地に誘導します。

● 中密度住宅地

駅から利便性の高い住宅地や従来からの中層建築物が立地する沿道などは、建築物の高さや配置などの規制誘導により、戸建て住宅とマンションなどの都市型住宅が調和した住宅地に誘導します。

● 大規模団地

大規模団地のうち、建て替え時期にきている団地は、地区計画により宅地内の緑化推進を図り、地域の特性を活かした魅力ある新たな団地へと誘導します。

● 商業系

● 商業・業務地

総合拠点である武蔵小金井駅周辺や、副次拠点である東小金井駅周辺では、商業・業務施設と都市型住宅が調和したまちづくりをめざして、都市基盤の整備と併せた土地の高度利用や都市機能の更新を推進します。

また、再開発などに当たっては、活力とともにみどりの創出により潤いのある都市空間をめざした土地利用に誘導します。

● 地域中心拠点

既存の商業機能を活かしながら、暮らしに必要な日用品などの商業・サービス施設や公共公益施設の立地をはじめ、高齢者や障がいのある人に配慮した歩行者空間の整備や沿道建築物の修景を進めることにより、地域の人が集い、にぎわいのある地域の中心拠点として育成、誘導します。

● 複合系

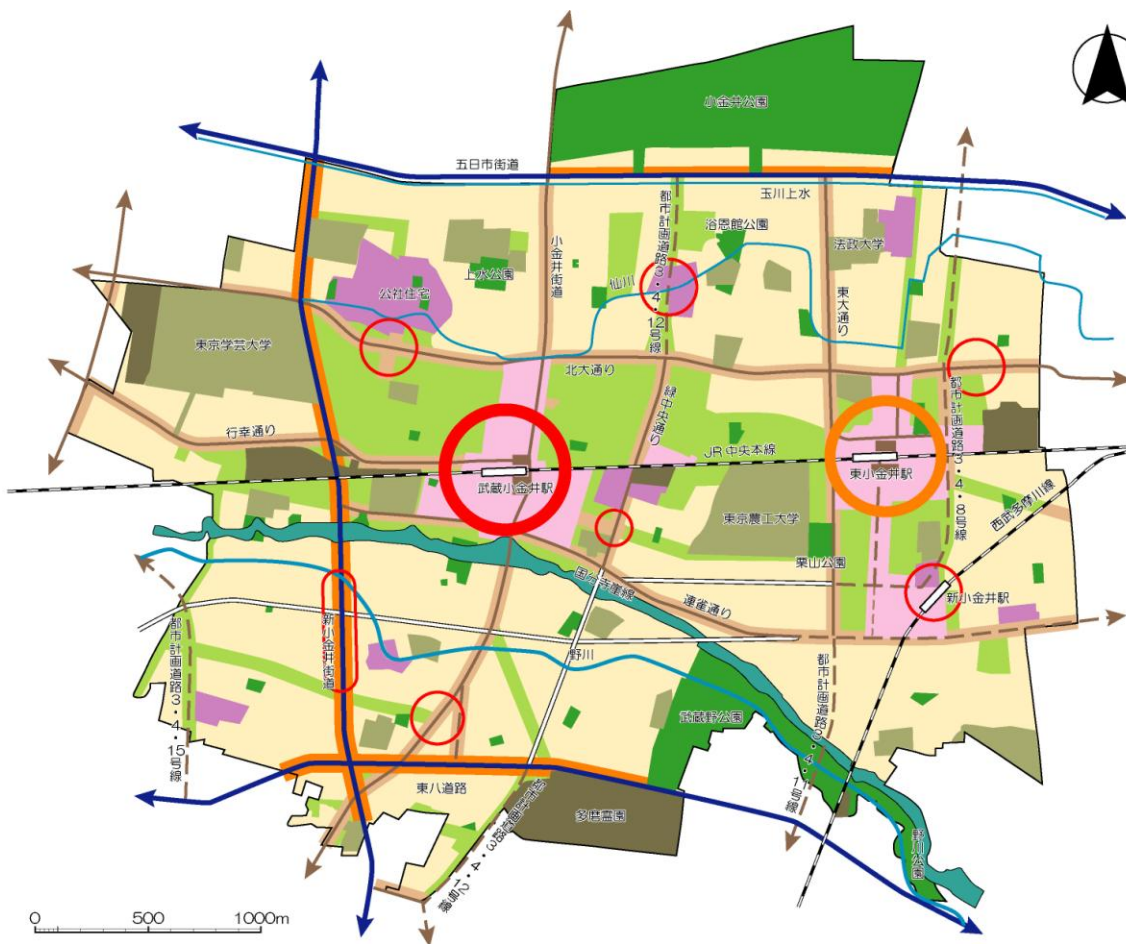
● 住商複合地

都市活動軸上の沿道は、敷地内の緑化推進と建物の配置や意匠などの検討により、日常的な商業・業務・サービス施設と都市型住宅が調和する小金井市の都市活動の軸となる魅力的な市街地に誘導します。












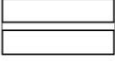


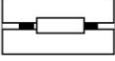




● 沿道利用地

都広域幹線道路沿道は、自動車利用の利便性を活かした広域的な商業・業務サービス施設を中心とする個性的で魅力ある空間づくりをめざした土地利用に誘導します。

土地利用の方針



凡 例

	総合拠点		住商複合地		広域幹線道路
	副次拠点		沿道利用地		幹線道路 (整備済・概成・整備中)
	地域中心拠点		都市計画公園・緑地		幹線道路 (今後整備を進める路線)
	低密度住宅地		教育施設		都市計画道路
	中密度住宅地		その他の大規模土地利用		鉄道・駅
	大規模団地		国分寺崖線（はけ）		河 川
	商業・業務地				

交通と道路整備

車社会の急速な発展は、慢性的な交通渋滞を引き起こすとともに、排出ガスによる環境破壊などにつながり、従来の車中心の道路整備は、高齢者、障がいのある人などにも大きな影響を与えています。

このような車中心の交通環境を、人や環境にやさしい交通環境に転換するため、都市の交通体系を、主要な幹線道路などの整備による円滑な自動車交通の処理だけでなく、安全に配慮した歩行者空間の充実に加えて、公共交通機関の利用促進など、総合的に交通体系を整備することにより、安全で快適な交通環境の形成をめざします。

都市交通体系の基本的な考え方

● 総合交通体系の構築

- ・ 将来的な交通需要への対応と新たな都市のあり方に対応した都市交通の再構築をめざし、コミュニティゾーンの確立や公共交通機関の利用促進など、自然環境との共生にも配慮した総合交通体系の構築を進めます。
- ・ 併せて、コミュニティバスの充実を図るために、路線バスの運行に配慮しながら、CoCoバスの運行ルートを検証を進めます。

● 都市構造を支える幹線道路の整備

- ・ 新小金井街道や五日市街道の広域幹線道路の整備により、広域都市間や各拠点間の連絡強化を進めます。
- ・ 緑中央通りや都市計画道路3・4・8号線、東大通りなどの南北幹線道路の整備により、市街地内の連絡強化を進めます。



▲ CoCo バス

● 安全で快適な人にやさしい交通環境の整備

- ・ 地域コミュニティの利便性の向上と安全で安心できる生活空間を形成するため、日常生活圏の検討や、主要生活道路（コミュニティ道路）など、身近な生活道路の整備を進めます。
- ・ 高齢社会や福祉社会などに対応し、歩行者の安全性・快適性の向上を図るため、低床バスの導入など交通施設のバリアフリー化と人や環境にやさしい低公害バスの導入を進めます。
- ・ 交通渋滞など中心市街地における交通環境を改善するため、主要な道路の整備と併せて、現在運行しているCoCoバスの運行ルートの検証など、ハード、ソフトの両面からの整備を進めます。
- ・ 市民の健康やレクリエーションへの関心の高まりや、環境に配慮したまちづくりを進めるため、できる限り交通手段をバス、自転車、徒歩へと転換し、歩行者路や幹線道路における歩行者空間の確保や、駐輪場の設置をはじめとした自転車の利用環境を整えるなど、低炭素都市づくりを支える交通環境の構築を進めます。
- ・ 武蔵小金井駅周辺における放置自転車対策を強化するとともに、駐輪場を整備し、武蔵小金井駅及び中心商業地内での安全で快適な歩行者空間の確保に努めます。

● 生活に身近な公共交通機関の利用促進

- ・ JR中央本線武蔵小金井駅や東小金井駅の交通結節点では、交通機関相互の連携を強化するための駅前交通広場、自動車駐車場及び駐輪場などの整備を進めます。
- ・ コミュニティバスの効果的・効率的な運行によるきめ細かなバスネットワークの充実とバス優先・専用時間帯の検討による定時性の確保などを検討し、バスが活躍するまちづくりを進めます。

道路の段階構成と整備方針

● 広域幹線道路の整備方針

東京都全体を考えた広域交通を処理する道路として、市の外周を形成する路線を位置づけ、東京都に対して整備推進を要望します。

〈東西方向〉 東八道路（東京八王子線）、五日市街道（東京立川線）

〈南北方向〉 新小金井街道（府中清瀬線）

● 幹線道路の整備方針

広域幹線道路とともに小金井市の骨格を形成し、主に小金井市内の交通を処理する道路として幹線道路の整備を進めます。

東大通り、小金井街道、連雀通り、緑中央通り、北大通りなど

● 整備に当たって

都市計画道路3・4・1号線（連雀通り区間）、3・4・8号線（JR中央本線以南）、3・4・11号線（連雀通り以南）及び3・4・12号線（北大通り以北）は、整備済み・着手路線との連続性や駅周辺へのアクセス動線の確保を勘案して、東京都に対して整備推進を要望するなど、道路整備を計画的に進めます。

● 国分寺崖線（はげ）の保全

国分寺崖線（はげ）のみどりの保全を勘案し、将来的には都市計画道路3・4・1号線及び3・4・12号線に関しては、一定区間での路線変更などの可能性について検討します。

● 連雀通りの現道を幹線道路として活用

連雀通り（都市計画道路3・4・3号線）のうち、未整備区間の都市計画道路3・4・11号線～3・4・12号線の区間は、当面連雀通りの現道を活用します。

● 新たな都市計画道路の延伸整備

都市計画道路3・4・10号線は、東小金井駅南口へのバスルートなど新たなアクセス道路として、将来的には都市計画道路3・4・1号線までの延伸の可能性について検討します。

- **主要生活道路の整備方針**

幹線道路によって取り囲まれる日常生活圏(コミュニティゾーン)において、地区の生活交通や各種コミュニティ活動の軸となる道路として主要生活道路を整備します。JR中央本線連続立体交差事業に伴い整備される、幹線道路以外の南北の横断道路は、主要生活道路としての有効活用を検討します。

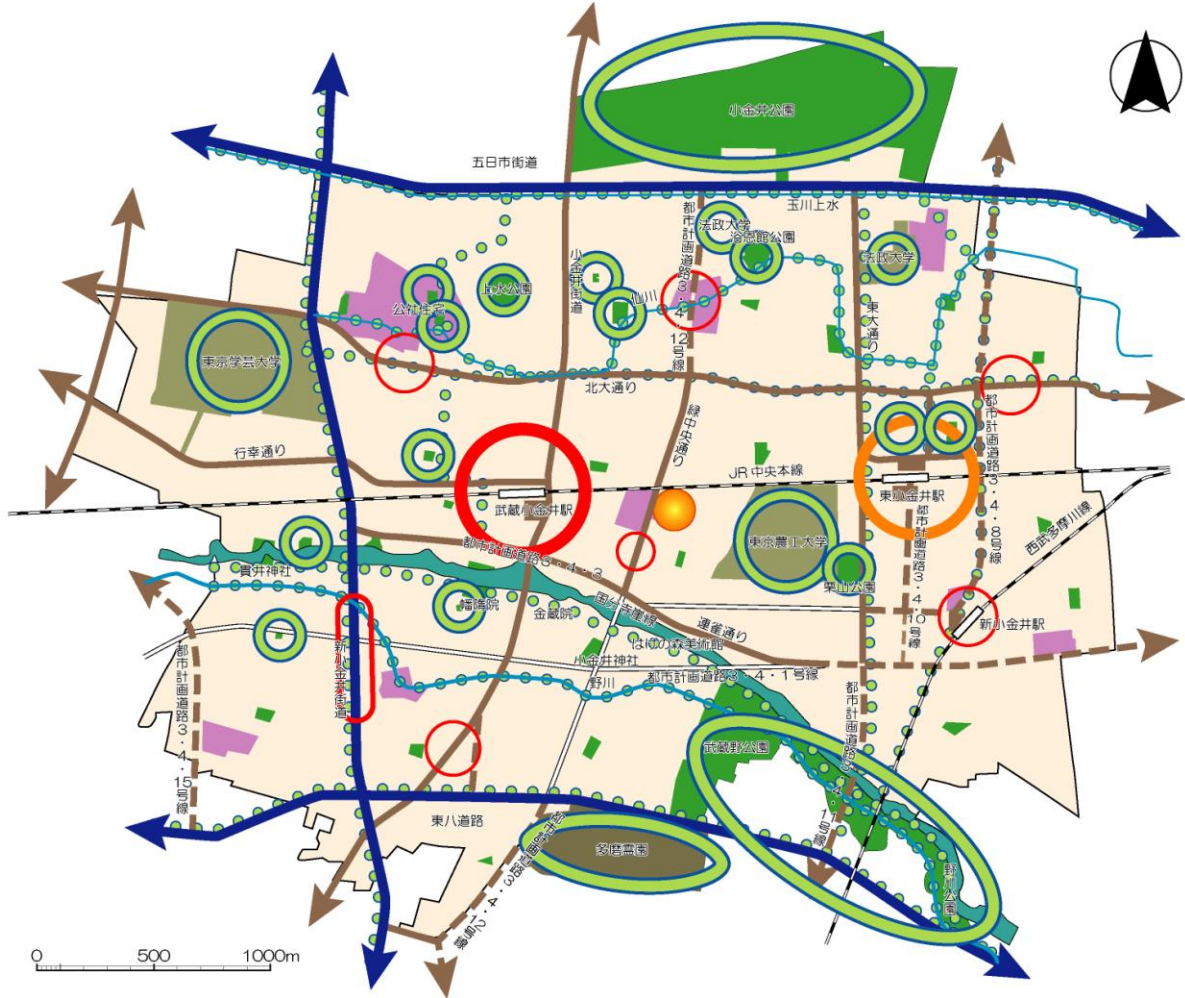
- **歩行者・自転車空間の整備方針**

日常生活において、特に歩行者や自転車の安全性を確保すべき道路や、公園・緑地系施設、公共公益文化施設をネットワークする道路及び用水路などの復活により整備する道路は緑化を図り、うるおいのある歩行者空間の整備に努めます。

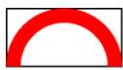









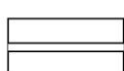




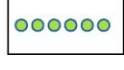


▲東八道路

道路網の方針



凡 例

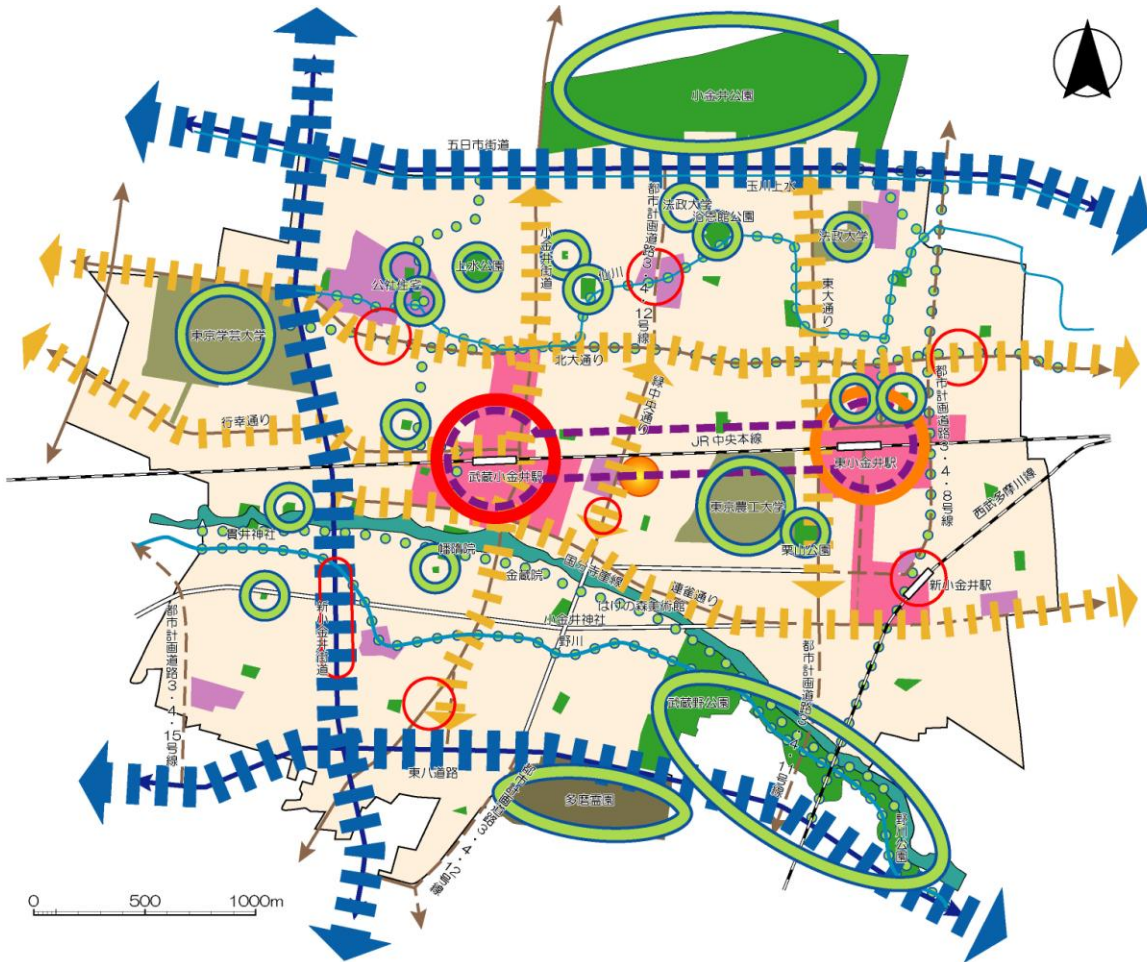
	総合拠点		広域幹線道路		都市計画公園・緑地
	副次拠点		幹線道路 (整備済・概成・整備中)		国分寺崖線 (はけ)
	みどりの拠点		幹線道路 (今後整備を進める路線)		大 学
	新たなまちおこしの拠点		都市計画道路		大規模団地
	地域中心拠点		鉄道・駅		河 川
	水とみどりのネットワーク				

主要な施策の展開

	方針 1-1 次世代にほ これる景観 づくり	方針 1-2 水とみどり と生き物の 創造	方針 1-3 環境負荷の 少ないまち づくり	方針 2-1 災害に強い まちづくり
隣接都市との連携による国分寺崖線（はけ）の 保全と都市緑地化	●	●	●	
安定的なごみ処理体制の確立			●	
建築物の屋上緑化、壁面緑化及び雨水浸透ます など環境共生建築物の普及		●	●	
クリーンエネルギーやコ・ジェネレーションシ ステムの導入などによる地球温暖化対策の推進			●	
JR中央本線関連側道及び南北交差道路の整備				●
日常生活圏単位での自主防災組織の育成				●
延焼遮断帯としての都市計画道路の整備や、避 難道路、避難場所及び耐震性貯水槽の整備				●
中心市街地や公共公益施設におけるバリアフリ ーの促進				
JR中央本線高架下利用による駐輪場、レンタサ イクル、SOHO、（仮称）市政センターの整備				
幹線道路の歩行者道・自転車走行空間の整備				
市民のふれあいの場などコミュニティ拠点の整 備				
環境美化サポーター制度など市民協働の取組				
SOHO・ベンチャー事務所の整備等、NPOなど活動拠点の 整備及び大学や研究機関の立地を活かした産学連携の支援				
商店街活性化イベントや空き店舗の管理・活用等 のための産業振興用ポータルサイトの立ち上げ				
駅前拠点地区でのにぎわい、交流のための広場 整備				
駅前拠点地区の機能更新を図るための、計画的 なまちづくりの推進				

方針 2-2 安心して暮 らせるまち づくり	方針 2-3 ふれあいの あるまちづ くり	方針 3-1 小金井らしさ を実感できる まちづくり	方針 3-2 創造的・個性 的な産業の 育成	方針 3-3 活力を生むコミ ュニケーション の場づくり	取組主体	
					市民協働	行政
		●			○	○
●						○
		●				○
						○
●		●			○	○
						○
						○
●	●				○	○
●			●	●		○
●	●					○
	●	●				○
		●			○	○
			●		○	○
			●		○	○
		●		●		○
●		●		●		○

総合的なまちづくりの方針



凡 例

	総合拠点		地域中心拠点		水とみどりのネットワーク
	副次拠点		商業・業務誘導ゾーン		都市計画公園・緑地
	みどりの拠点		広域幹線道路		国分寺崖線（はけ）
	新たなまちおこしの拠点		幹線道路 （整備済・概成・整備中）		大 学
	広域連携軸		幹線道路 （今後整備を進める路線）		大規模団地
	都市活動軸		都市計画道路		鉄道・駅
	にぎわいと交流を誘導するゾーン				河 川